

## 内容

1. 研修の目的と概要
2. プログラムの内容や学んだこと
3. 特筆すべき出来事や感想
4. 後輩たちにアドバイス



### 1. 研修の目的と概念

私は日常生活と法律に関する英語力を向上させるために、エジンバラ大学の研修に参加しました。今回の研修を通じて、日常生活ではホストファミリーとの共同生活を通して多くのことを学びました。平日の授業では、法律英語や法制度の違いに関する用語や説明方法を学びました。これらの知識は今後の独学に役立つと考えています。

### 2. プログラムの内容や学んだこと

研修期間は三週間で、平日は通常 13 時まで授業が行われました。授業の前半は法律関連の授業で、後半は英語の授業に分かれていました。両方の授業を通じて、第一週ではイギリスとスコットランドの法制度の基礎を学び、それを日本の制度と比較して理解を深め、英語での説明力を養うための演習を行いました。第二週では、学んだ単語や制度を復習しつつ、イギリスの有名な法廷判例のポスターを作り、発表しました。さらに、アンケート調査を実施しました。第三週では、調査結果を発表し、それに基づいて質問の仕方や発表の流れ、丁寧な回答方法など、様々なスキルを磨きました。

授業後には、学生メンターとともにエジンバラの名所を訪れたり、会話を楽しんだり、ポスターやプレゼンテーションの前日にアドバイスをを受けたりしました。また、友人達と興味のあるカフェやショッピングモール、博物館などを訪れました。



平日の夕方はホストファミリーと食事をし、毎晩新しい話題について議論したり、その日の出来事や日本、モンゴル、スコットランドの文化や歴史について話し合ったりしました。これらの活動を通じて、スピーキング力が大幅に向上したと感じました。

### 3. 特筆すべき出来事や感想

エジンバラは落ち着いた雰囲気に住みやすい町だと感じました。スコットランドの歴史やエジンバラの街に関する知識が深まったと思います。一緒に行った日本人の友人たちとはかなり親しくなりました。彼らとチームを組むことができ、異なるバックグラウンドを持つ全員が互いに学び合うことができ、良かったです。関西学院大学の学生とも交流することができ、新しい視点やエネルギーを感じることができました。イギリスの授業は生徒中心のスタイルで、先生が単独で話すことはほとんどありませんでしたので、生徒も積極的に参加するため、非常に興味深い経験でした。

印象に残ったことを思い出したら以下のことが考えられています。

まず、ホストファミリーとの夕食は毎日異なる料理を楽しみ、モンゴル料理のボーズを一緒に作って食べるなど、家族的な特徴や文化的な違いを楽しんだ経験でした。この交流は留学経験に深い意味を与え、ホストファミリーは家族のように優しく接してくれ、地元のエジンバラやグラスゴーを案内してくれました。

また、パブでサッカーを見ながらビールを楽しむことは地元の文化をリラックスした雰囲気の中で体験する良い機会でした。





次に、ロンドン旅行中にシェアハウスで日本人の友人と夜を徹して話し合ったことは、友情や絆を深める貴重な時間であり、留学中に仲間を得る喜びを感じました。後に彼らとホストファミリーと一緒にグラスゴーに旅行し、楽しい時間を過ごしました。

そして、時折見られる公園や庭に咲く桜は、日本の文化に触れる機会を提供し、懐かしい思い出を呼び起こしました。

それから、エジンバラ大学の Holyrood キャンパスと Old college を初めて訪れた日は、新しい環境にワクワクした気持ちで満ち溢れました。

最後に、毎日の一時的な雨の瞬間も、異国の地での生活を彩る一部であり、その美しさや不思議さに心を奪われました。



#### 4. 後輩たちにアドバイス

2つのアドバイスがあります。

まず、英語と日本法を事前に研修したり勉強したりすることは、エジンバラに滞在中に授業以外の時間を有意義に過ごすための良い方法だと思います。

また、エジンバラだけでなく、ロンドンやグラスゴー、北スコットランドなど、他の場所も訪れることを考えると良いでしょう。(土日に時間がありますので、ヨコバスなどの交通手段を利用すれば、比較的安価に色々な場所へ行くことができます)。

## エジンバラ研修での経験

学籍番号 [REDACTED]

名列番号 [REDACTED]

氏名 [REDACTED]

私は、エジンバラ研修で様々なことを学び、経験した。もちろん授業で得られることは多く、日本には学ぶことができない、生のスコットランドの法制度などについて学習することができた。だが、本レポートでは、授業で学んだこと以外の、特にエジンバラでの生活で印象に残っていることを3つ示す。

1つ目は、エジンバラの人々についてである。エジンバラの人々は優しいと感じた。そもそもイギリス連合諸国というと、紳士的で礼儀正しい国というイメージがあるが、まったくその通りであると思う。授業をしてくださった David と Cathy、メンターの Grace は、私が発言中に言葉を詰まらせたり、答えを間違えても、叱るのではなく、分かりやすく説明しなおし、私を正解へと導いてくださったり、プレゼン準備で分からないことがあったらすぐに相談に乗ってくださったり、休み時間には私たち生徒と他愛ない会話をしてくださったりと、毎日の授業を楽しいものにしてくださり、私たちは苦を感じることなく、楽しみながら授業や課外活動に取り組むことができた。ホストファミリーは、私のことを本当の家族のように扱ってくれた。私が過ごしやすいうちに気を配ってくれたり、私がランチやお土産を買う場所を悩んでいたら、おすすめのお店を紹介してくれたり、夜に行われるダンスである Ceilidh (ケイリー) に参加する時や夜行バスでロンドン観光に行く時など、彼らはとても心配し、安全に過ごすためのアドバイスをくれたり、本当に感謝してもきれないほど親切にしてくれた。また、店員やバスの運転手などの街の人々も、慣れておらず、あたふたしてしまう私に嫌な顔一つせず、むしろ笑顔で対応してくれた。私は、エジンバラの人の優しさが嬉しかった。

2つ目は、エジンバラの景色である。エジンバラは歴史ある街で、レンガ造りの古い建物でも現代の建物と同様に保温性と耐久性に優れているから、いまだに古い建物が使われているとホストマザーが教えてくれた。そのため、景観が美しく、まるで映画の中の世界に入ったかのように、とても印象的だった。右の写真はエジンバラ大学の一部である。エジンバラ大学は 400 年以上も前に設立されており、現在でも多くの昔の建物を使用している。様々なキャンパスがあり、私たち



はスコットランド議会の近くにあるキャンパスで授業を受けた。このキャンパスの隣の大通りを上に登っていくと、左の写真のエジンバラ城につながる。エジンバラ城は丘の上にあるため、眺めがよく、私が訪れた日は天気が良かったので、エジンバラの街を一望することができた。私はこれらのエ

ジンバラの古き良き建物の美しさに感動した。

3つ目は、スコットランドの食事である。私は食べることが好きのため、食事を楽しみにしていた。スコットランドには様々な伝統的な料理があるが、特に忘れられないものが2つある。まずは、右の写真のフィッシュアンドチップスだ。ホストマザーが休日に連れて行ってくれた海辺のお店で、顔よりも大きい魚のフライに驚いた。酢をかけて食べる伝統的な食べ方を教えてもらい、試してみると非常に美味しかった。魚のホロホロとした身と、酢の酸味と衣の油分が合わさり、一人でもべろりと食べきってしまった。海



の近くだから、良い魚を使っているようだ。次に、左の写真はホストマザーが作ってくれた夕食の1つである。ホストマザーの料理はどれも本当に美味しかったが、これが特に印象的であった。黒っぽい粒上のものをハギスと言い、羊の内臓で、独特の風味がする。濃い味付けのため、横のマッシュポテト、キャロットと一緒に食べる。好き嫌いが分かれる味だが、私は美味しいと感じた。また、ホストファミリーと話しながら食べる食事は、楽しいものだった。

私はエジンバラ研修でたくさんの良い経験をする事ができた。初めての海外ということもあり、行く前は不安で仕方なかったが、今では行ってよかったと心から思う。スコットランドの法制度等について学び、エジンバラの人々の温かさに触れ、街並みや料理を楽しんだ研修の3週間で、私はエジンバラを好きになり、この経験は私の人生の中の大きな財産となった。機会があれば、またエジンバラに行きたいと強く思う。

## エジンバラ大学法律英語研修を終えて

人間社会学域法学類2年



### 1. はじめに

2/18~3/9の約3週間、私はスコットランドの首都に位置するエジンバラへ研修に行きました。元々英国を含めた外国の文化に興味があったのと、法律に関しての知識を深めたいという意欲から、エジンバラ大学でのこの研修に参加することを決めました。想像していた何倍も楽しくて毎日が新しい発見の連続で、今では人も街も食べ物もすべてが大好きで愛おしく思います。驚きと感動でいっぱい、人生で一度は訪れるべき場所！

### 2. エジンバラの街並みや文化

建物や丘、どこを見渡してもまるで中世ヨーロッパの世界に迷い込んだみたい！お城や博物館だけでなく民家や道路の造り全部にこだわりがあって、街全体で協力して歴史的景観が大切に守られているのが伝わってきました。中でもエジンバラを一周して街並みを一望できるバスツアーは本当に最高！



ほとんど風が強くて雨が降っていることが多く寒かったけれど、虹がたくさん見られました。



特に印象に残っているのは、『Ceili』！伝統的なダンスパーティーで、ホストマザーに勧められて参加したけれど、本当に楽しかった！年齢や性別、国籍も関係なく、初対面の人と手を繋いで笑いながら自由に回って踊っていい汗をかきました。私はスカートを履いたおじいさんに教えてもらい、時折宙に飛ばされたりしながら騒いでいました。英語が上手く話せなくても、少し緊張していても、最後には絶対にみんなと仲良くなれて悩みなんて忘れてしまいます！楽しくて素敵な夜でした。

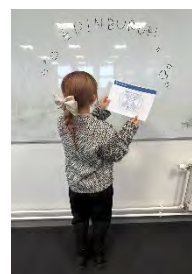


エジンバラにはレストランよりもバーやパブが多く美味しく安くお酒が飲めるおしゃれなお店がいっぱい！昼間から気軽に飲み知らない人とお喋りをして、みんなその場の雰囲気を楽しんでいるように見えました。賑やかで華やかで愉快的な時間を過ごすことができました。

### 3. 授業

法制度に関して、スコットランドにおける歴史的変遷や議会と裁判所の仕組み、日本と比較した場合の共通点や相違点などを具体的に学びました。ただ聞いて知るだけでなく、授業内で実際に議会や裁判所や博物館を訪れ、自分の目で見て質問をして理解を深めました。この経験を通して、興味の幅が広がり教科書や本でしか得られなかった知識がより鮮明になり、自発的な学びの大切さを感じました。また、意味や綴りが分からない法律専門用語や難しい法制度を説明する際には、周りで積極的に教え合いや話し合いをしました。何事も分からないことを分からないままにせず、常に質問し疑問を持ち続けること、誰かが分からなかったらみんなで立ち止まって一緒に考えて、知識の共有をすること、一人で考え込むのではなく、先生も生徒も平等になって高め合う雰囲気の中で学ぶことができ本当によかったと思います。

今回のポスターセッションやプレゼンテーションを通して、自分の知識や学びへの姿勢に大きく自信がつけました。初めは知らない人にインタビューしてみんなの前で10分も一人で英語を話すなんて、絶対にできないし無理だと思って不安な気持ちでいたけれど、たくさん考えて準備して練習して、最後に無事成功させることができた時に、何とも言えない喜びと達成感が込み上げてきました。この努力と成功体験はこれからの私の人生の大きな支えになると思います。とても貴重で楽しい経験でした。

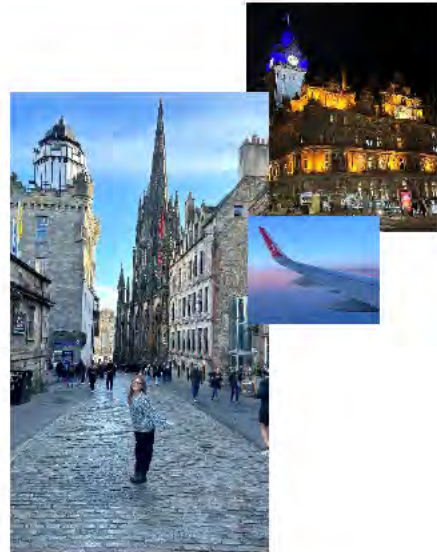


### 4. エジンバラの人々

この慣れていない海外生活で、何度も何度も人の温かさに助けられました。私がエジンバラに来てよかったと思える一番の理由です。特に今でも連絡を取り合っているホストファミリーには感謝しかありません。授業で行き詰った時には豊富な知識と経験で有益なアドバイスをくださり、生活や将来に悩んだ時には甘いお菓子や紅茶で励ましてくださりました。知的で優しく努力家で人の気持ちの分かるとてもあたたかい家庭で、本当に出会えてよかったです。私もこんな素敵な人になりたいと思いました。また英語があまり得意ではない私に、バスの運転手さんや店員さん、先生などたくさんの方が親身になり協力してくれました。おかげでミスを恐れず楽しく積極的に会話をすることができ、やりたいことをのびのびとすることができました。フレンドリーで紳士的な人が多く、買い物や食事などの日常で何気ない会話をするのが何よりも楽しみで、こんなに毎日人の温かさに触れることができるなんて、本当にありがたく幸せなことだったと思います。

## 5. おわりに

この研修を通して、自分の物の見方や価値観、考え方に大きな変化と成長を感じました。たかが3週間されど3週間、毎日目標を持って意欲的に活動することでこの研修を自分のものにできたと思います。多くの人や物に触れ、今まで狭かった視野が広がりました。また自信がついた部分もあれば、未だ無知である部分に気づくこともでき、別の地に身を置くことで自分を見つめ直すいい機会にもなりました。濃くて新鮮だったこのエンジンバラでの経験は、すべて私の人生においてかけがえのない財産になったと思うし、今後挫折した時に必ず私を助けてくれると信じています。本当に楽しくて最高の研修でした！また絶対に行きたいです。





## エジンバラ大学法律英語研修事後報告書

学籍番号

今回の研修で私が学んだ一番のことは、もし留学に行きたいと少しでも思っているなら絶対に行った方が良くということだ。私は英語は得意ではないし、法律の勉強も特段好きというわけではない。今回の研修に参加した理由は「就活で強そうだから」「大学生活で一度くらいは留学に行っておいた方がいい気がするから」くらいの理由だ。ここまで読んで、ちょっとでも参



加してみたいと思ってくれた人のために、ここからは留学のためにすべきこと、し




たほうがいいことを挙げていく。一つ目は、パスポートについてだ。私はこの留学で初めて海外に行ったので、パスポートをとる必要があった。もし私と同じように海外に行くのが初めてで、パスポートをとる必要があるという人は早めに、できれば夏休みの間に取っておくことをおすすめ

する。パスポート取得のための手続きは意外と煩雑で、学校が始まってからだと後回しにしてしまうと思う。実際、私は後回しにし続けて、結局11月までかかってしまった。また、IELTSの申し込みにもパスポートが必要なので、本当に早めにとったほうがいい。二つ目は、観光についてだ。どこか行きたい場所があるなら、そこに行くた

めの交通手段(電車やバス、飛行機等)も含め予約しておいたほうがいい。私はハリーポッターのスタジオツアーに参加したいと思っていたのだが、2か月先まで予約が埋まっていて参加できなかったの、日本にいるときに予約を済ませておくほうが良いと思う。また、交通手段に関しても、早めにとっておいたほうが安くなるので、いつどこに行くのかをしっかりと計画しておいたほうが良い。三つ目はクレジットカードについてだ。イギリスはかなりのキャッシュレス社会なので、ほとんどの支払いがクレジットカードになる。そのため、クレジットカードの上限を上げるか、留学の前に使いすぎないように心掛けたほうが良い。そして、もっとも重要なことは難しく考えず、とりあえず挑戦してみることだと思う。もし今少しでも参加したい気持ちがあるのならぜひ参加してほしい。私自身、正直英語力が格段に伸びたかと言われれば自信はない。最終日でもホストマザーが言っていることを完全に理解することは難しかったし、正しい文法、正しい単語で自分の伝えたいことを伝えられていたとは思えない。だが、とても貴重な経験になったということは間違いない。この研修に参加しなければ、イギリスの料理があんなに美味しいなんて知ることはなかっただろうし、エジンバラの美しい街並みを見ることも一生なかっただろう。もちろん英語力も法律の知識も伸ばせることが一番であるが、一つの経験としてこの研修に行くことも良いのではないかと私は思う。

## エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書

学籍番号： 

私がこの研修に参加しようと思った理由は自分の英語力を高めたいということやイギリスの法制度を学びたいという理由からではなく、単に海外での生活を体験してみたいという思いがあったからである。もちろん、自分の英語力を高めることや日本とは異なる法制度を学ぶことは意欲的に努力が必要であるが付随的に達成できるものであるから、この研修に参加するきっかけや目的は多様で良いと私は考えており、海外に行きたいという気持ちを大切にしてほしいと思う。また、英語力に不安がある場合においても、この研修に必要とされる外部試験のスコアは決して高くはなく、私自身も英語に自信がなく不安を抱えながら参加したが十分に授業を理解することができ、ホストファミリーと会話のできたので、決して英語力を理由に諦めずに挑戦してみしてほしい。

生活面においても快適に過ごすことができた。イギリスはご飯があまりおいしくないことで有名であるが、日本では味わうことのできないおいしい料理に出会った。一部の料理や伝統的な料理は人を選ぶかもしれないが、私が食べたものの中には口に合わないものはあまりなかった。特に美味しかったのは、フィッシュアンドチップスと

いうタラを揚げたものが様々なソースやトッピングとともに楽しめるというものである。



私を感じた留学の際の注意点はイギリスはほぼ完全にカード社会であるということである。すべての店でカードは使えるし、何なら募金もカードですることができるようであった。それゆえに、使い過ぎで不正利用だと判断されカードが止まってしまうと非常に危機的状況に陥る羽目になるのでカードの限度額やカード会社への連絡手段の確認は出国前にしっかりとしていくことを強く推奨したい。

# イギリスのご飯は本当に美味しくないのか？

人間社会学域 法学類 2年

## 0.初めに

突然だが、皆さんはイギリスのご飯についてどのような印象をお持ちだろうか。

「イギリスのご飯と言えば、フィッシュアンドチップスでしょ」

「いや、イギリスはご飯より紅茶やアフタヌーンティーのイメージだ」

様々な答えがありそうだが、最も多いものはこれではないだろうか。



「イギリスのご飯は美味しくないんじゃないかな…」

私がイギリスに留学に行く、という話をした所、友人やアルバイト先の人、殆どの人が口をそろえてこのように言ったのだ。そして、大変失礼な話だが、正直に言うと、私もイギリスの食事に対して美味しいというイメージは抱いていなかった。

では、実際にイギリスのご飯は美味しくないのか。3週間という短期間ではあるが、エジンバラ大学英語研修を通して私はイギリス留学を経験することができた。このイギリスでの留学経験から、このレポートのタイトルにもある、「イギリスのご飯は本当に美味しくないのか？」という質問に答えてみたいと思う。

しかし、答えをすぐに述べてしまうのではつまらない。私のエジンバラ大学英語研修での経験を紹介した後、最後に質問に対する答えを述べようと思う。

少し長いレポートになってしまうが、今後エジンバラ大学英語研修に参加してみたいと考えている人の参考になれば幸いだ。

## Contents

0.初めに 1.大学生活 2.大学での学び 3.ホームステイ 4.観光 5.質問の答え

## 1.大学生活

では、最初にエジンバラ大学での大学生活について紹介する。大抵、授業は午前で終わる。今回は、1限が法律の授業、2限が英語の授業であった。又、1コマ1時間50分と、約2時間である。1コマの時間からも、日本の大学との違いが感じられるであろう。

(ちなみに、個人的には授業の1コマが長いことよりも、お昼ご飯の時間が遅めであることに驚いた。)

午後は自由時間として使えたり、皆で施設見学に行ったり、時には課題や発表の準備のための時間を過ごすことになるだろう。

### ▼スケジュールの一例

Session	9:00-10:50	11:10-13:00	13:00-14:00	14:00-16:00
Mon	Law	English	Lunch	Museum Tour
Wed	Law	English	Lunch	Free

そして、中には外国での大学生活に対して、不安を感じる人がいるかもしれない。しかし、心配することはない。エジンバラ大学で私たちに法律と英語を教えてくださいました2人の先生方はとても優しく、何でも丁寧に教えてくださいました。加えて、メンター制度というものがあり、エジンバラ大学の学生の方が、課題に対するアドバイスを始め、私たちの大学生活を沢山サポートして教えてくださいました。

日本では英語に触れる機会が少ないであろう。それ故、英語で講義を受け、課題を提出し、学びを吸収することは簡単なことではないと思う。実際、私にとっては大変な試みであった。しかし、エジンバラ大学での生活を通して、英語に対する恐怖心や、外国での生活に対する不安を払拭することができたと心の底から思う。又、日本の大学との違いも味わうことができ、楽しかった。ぜひ、エジンバラ大学での大学生活にチャレンジしてみたいと思う。



▲エジンバラ大学のキャンパス。歴史的な建物もあり、敷地が広い。



◀昼食は大学近くの TESCO で買うことができる。

(TESCO という名のスーパーマーケットがある。個人的に TESCO で買えるクロワッサンがお勧めだ。)

## 2.大学での学び

大学生活について触れた所で、ここではどのような学びをすることができたのか紹介しようと思う。1限に行われた法律の授業では、スコットランドの法律の仕組みについて学んだ。そこでは先生のお話を聞くだけではなく、ペアワークやグループワークを通して法律についての知識を身に着けることができた。日本の制度との違いや、専門的な単語に戸惑うこともあったが、自分の頭で思考する、というプロセスが沢山盛り込まれた講義であり、より深い学びを得られた。

又、2限に行われた英語の授業では、ポスターセッションやプレゼンテーションで活かせるスキルを沢山学んだ。どのように話すと相手に伝わりやすいのか。人を引き付ける資料とはどのようなものなのか。英語の発音やイントネーションについても教えていただいたが、英語だけに留まらない、発表スキルを身につけられたことはとても大きなことだと感じている。

そして、3週間の中で、ポスターセッションとプレゼンテーションを行った。ポスターセッションでは、ペアごとに与えられた判例について調査を行った。外国の判例を調べることは難しかったが、ペアで協力しながら判例を理解し、他者に分かりやすく説明できるよう、ポスターを作成した。

加えて、プレゼンテーションではペアもしくはグループで、調査テーマから自分たちで決め、実際にインタビューなどを踏まえた調査を行った。ポスターセッションに比べ、裁量が大きい分、準備に時間を要した。又、インタビュー調査や最終発表では沢山英語を話す必要があるため、緊張した。しかし、プレゼンテーションの取り組みは達成感が大きく、英語を使うことに対する自信を身に着けることができた。生きた英語に触れ、実際に英語を活用するという点から、とても有意義な時間であったと思う。エジンバラ大学のプログラムでプレゼンテーションに懸命に取り組んだ思い出は一生ものだと言えるだろう。



最後に、現地に行かないと見られないものを実際に目にすることができることも留学の醍醐味であり、大切な学びであると言えるだろう。3週間のプログラムの中で、スコットランドの議会と裁判所の見学をすることができた。写真があるので、載せようと思う。ぜひ、日本とスコットランドの議会と裁判所、それぞれの違いを実際に訪れ、見てみてほしい。



#### ◀ スコットランドの議会（英語：Parliament）

モダンな建築美を感じる作りである。

（石川県立図書館のような雰囲気を感じるのは私だけだろうか）

見学ではガイドの方に案内していただいた。



#### ◀ スコットランドの裁判所（英語：Court）

写真は THE SUPREME COURTS（最高裁判所）である。

しかし、事情により、実際は他の裁判所に見学に行った。

日本の裁判所と異なり、女性の法曹が多かったこと、そして

人の出入りが激しかった（日本の裁判は静かに行われるイメージ）

ことが印象的であった。

### 3.ホームステイ

私はエジンバラ大学英語研修に参加する前、ホームステイが最も心配であった。なぜなら、私は他の人の家に宿泊する、といった経験をしたことがあまりないからだ。又、留学しているとは言え、大学に行けば日本人の学生がおり、何かあった際にはお互いに助け合える安心感がある。しかし、ホームステイ先では日本語が通じる人がいないだろう。どうしよう。どうしよう。私は心臓をバクバクさせながらホームステイに挑んだ。しかし、実際にホームステイを始めてみると、そのような心配は不要であった。杞憂に過ぎなかったのだ。私のホストファミリーは、ホストマザー、ホストファザー、ホストブラザー、そして2匹の犬たちであった。緊張している私を温かく向かい入れてくれ、とても楽しい3週間で過ごすことができた。

ホストファミリーはとても親切で、困った時はいつでも手を差し伸べてくれた。スコットランドに着いた初日。私はSIMカードの不調によりスマートフォンを使うことができなかった。次の日からは大学に行かなければならない。しかし、スマートフォンの地図アプリが使えない。困った。どうしよう。すると、ホストマザーは私を車に乗せ、家から大学までの道を何度も車で往復し、私が道を覚えるまで本当に何度も何度も車を走らせてくれた。次の日にはスマートフォンの不調が解消されたのだが、ホストマザーの優しさに私は感動し、心が温かくなった。

又、「2.大学の学び」で述べたように、プレゼンテーションではインタビューを行う必要があった。私がインタビューの回答が少なく困っていることを相談すると、ホストファミリーが近所の人に声をかけてくれ、私のインタビューのサポートをしてくれた。又、近所の方々も、突然のインタビューにもかかわらず、私を温かく受け入れてくださった。

ホームステイを通して、現地の文化に触れることができたことは勿論のこと、人の温かさに触れることができたことがとても幸せなことだと感じた。私の英語はお世辞にも上手とは言えない。英語を話そうと思うと、緊張してしまい、思ったように言葉が出ず、文法がめちゃくちゃな英文が出来上がる。そのような私の英語にも丁寧に耳を傾け、困った際にはいつでも助けてくれたホストファミリーには本当に感謝の気持ちで一杯だ。



### ▲ホームステイ先でのディナー

毎日本当に美味しいディナーを頂いた。左はホストマザーの得意料理のラザニア。右はスコットランドの伝統料理。主食はジャガイモのイメージがあるかもしれないが、タイ米を使ったインドカレーやパスタ料理も何度か食卓に並んだ。私は夕ご飯を食べながら、ホストファミリーとドラマやドキュメンタリーショーを観るのが楽しかった。



### ▲スコティッシュタレット

ホストマザーにお勧めしてもらった、スコットランドの伝統的なお菓子。エジンバラ大学のすぐ近くにもお店がある。上品な甘さで美味しかった。ホストファミリーには、お勧めの観光地やお勧めのお土産など、スコットランドのことを沢山教えてもらった。

## 4.観光

月曜日から金曜日は大学の授業が忙しいこともあり、あまり遠くの地域まで観光に行くことが難しい。しかし、土曜日や日曜日は少し遠くまで足を延ばすチャンスである。私は主に平日の午後の自由時間にエジンバラを、土日を用いて、ロンドンやグラスゴーという都市を訪れた。折角イギリスに来たのであれば、観光も楽しみたいところである。又、美術館や博物館は無料の所も多い。ここでは私が訪れたお薦めの観光スポットを紹介する。

### ①エジンバラ

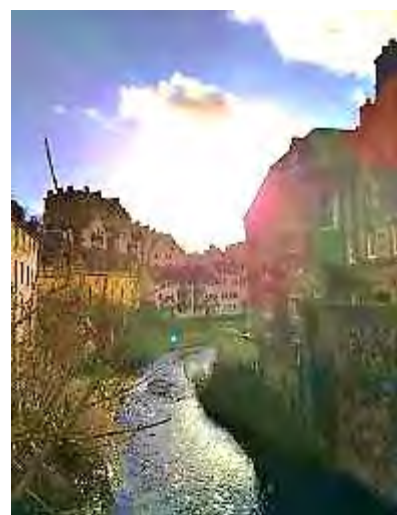
スコットランドの首都。歴史的な建物や自然が多い。私のイメージで言うと京都。



エジンバラ城  
(Edinburgh Castle)



セント・ジャイルズ大聖堂  
(St. Giles' Cathedral)



ディーンヴィレッジ  
(Dean Village)

## ②ロンドン

イングランドとイギリスの首都。世界的に有名なものが多い。イメージは東京。

エジンバラからの交通手段は主に3種類。費用は以下の不等号のようになる。

夜行バス(9時間) < 飛行機(1時間) < 電車(4時間)

私は夜行バスを使ったが、現地の人からは景色などの観点から電車をお勧めされた。



ビックベン  
(Big Ben)



大英博物館  
(British Museum)



バラ・マーケット  
(Borough Market)

## ③グラスゴー

エジンバラの近くにある都市。エジンバラからは公共交通機関や車を使って行くことができる。ご飯が美味しいとのこと。近代的な建物も多く、私のイメージは大阪。



グラスゴー大学  
(The University of Glasgow)



ケルビングローブ美術館・博物館  
(Kelvingrove Art Gallery and Museum)



皆さん、エジンバラ大学英語研修プログラムの様子は伝わったでしょうか。最後に、私が留学というものを生まれて初めて経験したことで考えたことを述べて終わりたいと思う。最初に、私は

「イギリスのご飯は本当に美味しくないのか？」という質問を投げかけた。この問いの答えは、「NO」である。つまり、イギリスのご飯は美味しいのだ。

私はホームステイ先での夕食や、レストランでの食事に感動した。とても美味しかった。又、ホームステイ先ではインドカレーやメキシコ料理を始め、様々な国の料理が食卓に並んだ。私のホームステイ先だけでなく、他の学生のホームステイ先でも同じであったようだ。そして、街には日本のたこ焼き屋を含め、アジア料理のお店や世界各国の料理が味わえるお店が並んでいた。日本にいと、イギリスという国に対して食に豊かなイメージを抱かないだろう。ましてや、イギリスのご飯は美味しくない、というステレオタイプが植え付けられてしまっている。しかし、実際はどうだろうか。そのイメージやステレオタイプは思い込み過ぎず、正しいものではなかったのだ。よく、留学に行くと視野が広がる、という話を耳にするが、本当だと思う。留学を通して、見ている世界の角度が変わり、今まで見えていなかったものの姿を捉えられるようになるのだと思う。見ている世界の角度を変えるためには、見ている地点、自分のいる場所を変えることが重要になってくるだろう。そして、私は、実際にイギリスに行き、「イギリスのご飯は美味しくない」というステレオタイプがステレオタイプであることに気が付くことができ、本当に良かったと思う。留学したからこそ、私の世界の角度が変わったのだ。そして、私は自分の世界の角度だけでなく、もっと世界の角度を変化させていきたいと思う。イギリスのご飯は美味しい。このことを、私の周りの人にも伝えていきたい。誰かが、世界の角度を変えたら、それが広がっていき、皆で見えていく世界が広大で、多様なものになっていくのではないだろうか。外国で学ぶ、ということは、視野を広げるという点でとても価値があり、人生の宝と言えるのではないだろうか。

留学は費用も時間もかかり、それなりのハードルがあることを否定できない。しかし、金沢大学には奨学金の制度があったり、サポートして下さる先生方がいらっしゃったりする。もし、エジンバラ大学英語研修に参加するかどうか迷っているのであれば、ぜひ勇気を出して挑戦してみてほしいと思う。きっと、あなたが今見ている世界が留学を通して変わって見えるだろう。私がそうであったのだから。

## エジンバラ法律英語研修事後報告書

人間社会学域法学類 1年

### 1. はじめに

私はもともと、積極的に留学に参加したいと思っていたわけではない。ちょうどこの研修の説明会が行われようとしていたとき、カナダに留学していた私の弟が充実した海外生活を送っていることに憧れを抱いたことが、留学に挑戦してみようとしたきっかけである。気軽に説明会に参加してみたところ、将来的に法律関係の仕事に就きたいと思っていたため、語学研修にとどまらず法律研修も盛り込まれたこのプログラムに魅力を感じた。また、3週間という短期間であるところや、留学先がスコットランドのエジンバラというたいへん美しい街であるという点にも惹かれた。もちろん、事前研修でも留学先でもしっかり勉強しようという気ではいたが、留学する決め手となったのは、もっぱら好奇心によるものである。



何か目的をもって留学しようとすることは素敵なことであるが、私のように、「興味のある分野を異国の地で学ぶ経験をするのもありかも」、「弟みたいに海外生活を楽しめたらいいな」というようなちょっとした興味から挑戦してみるのもいいと思う。いずれにしても、留学を決断をする際には少々思い切りと覚悟が必要だと思う。なぜなら、どんな人にも未知の世界が広がる場に飛び込んでその場で試行錯誤することが求められるからである。私は漠然とした興味本位で思い切ったわけであるが、外国の大学での授業でもホームステイ先でも、これまでの自分の殻を破ってなるべくたくさんのかんことを自分から掴みにいこうという気持ちは忘れないようにしていた。



### 2. エジンバラ大学での授業

授業は月曜日から金曜日の 9:00~13:00 に行われた。日によって午後に課題の準備時間が設けられたり、裁判の傍聴や国会議事堂の見学へ行ったりする機会もあった。内容は UK の司法システムと語学の主に 2 種類に分けられる。エジンバラ大学の学生が 1 人、メンターとして私たちの手助けをしてくれた。授業中にグループワークの進行を促してくれたり、授業外にプレゼンの原稿の文法や内容の適切さなどを細かくチェックしてくれたりした。司法の授業では、国家のシステムの歴史やイングランドとスコットランドと

のルールの違い、法律家のそれぞれの役割など多岐にわたる司法分野の知識を得ることができた。語学の授業では、アクセントやリズムの練習、リアクションをとることの大切さとそのやり方などについて学んだ。どちらの授業でもペアやグループで話し合う機会が多く、そこで一生懸命自分の言葉で説明する訓練をした。自分のスピーキングレベルが上がったかどうかはわからないが、英語を話すことに対する不安や躊躇いは軽減した。授業についていくのに必死でとても疲れるので、毎日ベッドに入って目をつむればあつという間に朝が来ていた。



大きな課題が2つあり、1つはポスターセッションで、ペアでUKの有名な判例について調べてポスターにまとめ、少人数に対してプレゼンを行

い、彼らの質問に答えるというものである。Visitorから鋭い質問が投げかけられることがあるが、曖昧にするのではなく、もう一度質問を確認したり、はっきりわからないと答えたり、逆にどう思うか質問者に聞き返してみたりと堂々と応じることが大切である。もう1つの課題は最終プレゼンテーションで、これはペアまたはグループで興味のあるトピックに関する調査を行ってその成果を発表するというものである。調査の際に現地の人にインタビューをすることが求められた。また、発表は1人10分話すことが要請された。私のグループでは、スコットランド人と日本人で比較をするためにGoogle formを用いてアンケートを実施したが、他のグループは街頭インタビューや家の近所の人、エジンバラ大学の大学生な



などに対する聞き込みを行っていた。私たちは安楽死に対するスコットランド人と日本人の考え方の違いについて調べた。結果は両国とも賛成派が圧倒的に多いことが分かったが、安楽死について考える際に日本人は家族や介護者への負担を気にするのに対して、スコットランド人はその点をあまり気にしていないことなどの文化的な違いが明らかになった。短い準備期間のなかで、多くの人から回答を得て、グループで話し合いを重ねて満足のいく考察ができた。本番では特にQ&Aのパートがうまくいった。先生から安楽死の種類の違いの説明を求められ、チームメイトが自信をもってそれに答えている姿を見たとき、時間がないながらも理解できるまで調べた甲斐があった、と嬉しくなった。

クラスメイトから私たち自身の安楽死に対する考え方を聞かれた際には、簡潔に理由を交えてさつとそれぞれの意見を言えた。しかし、私が担当したpptは色、情報量、チャートの使い方など改善するべきところが多い。また、発表中に原稿に頼り過ぎてしまったという反省点もある。



### 3. ホームステイ

私のホームステイ先は、ホストファザーとホストマザーとその娘の3人で暮らしていた。ホストファザーは、空港で初めて会った瞬間からトラムに乗って家に着くまで、たくさん私に質問したり、自分の家族のことを紹介してくれたりして、その親しみやすさのおかげですぐに緊張がほぐれた。ホストファザーとホストマザーは私が朝起きる前に家を出ていることが多く、帰宅時間は日によって異なり、午前中で仕事を終える日もあれば 20:00 まで仕事に出ていることもあった。ホストシスターは、毎日朝から晩まで働いており丸一日顔を合わせないこともしばしばあった。食事は、朝は食卓に出ているものを食べたり自分で作ったり



した。ランチは自分またはホストが作るサンドイッチか、大学近くのコンビニのサンドイッチを買って食べた。ディナーは、基本的にはホストファザーがスコットランドの有名な料理をふるまってくれ、たまにホストマザーが野菜スープや手作りのソーセージなど家庭的な料理を出してくれた。ほとんど毎日ポテトフライかゆでたじゃがいもが出ることに驚いた。私の家では出なかったが、他の留学生の家ではカレーが出る家庭が多かった。



フィッシュ&チップス



ベーコンとチーズのキッシュ

ディナータイムは私のお気に入りの時間で、その日あったことをお互いに報告し合ったり、その日の授業内容について議論したりした。毎日食後にアイスクリームやチョコレートを出してくれた。シャワーは自由に使っていたが、使用時間についてなどのルールはなかった。また、洗濯機の前に洗濯物を置いておけば洗濯しておくよ、と言われたので、自分のタイミングで置いておいたところ、次の日までには部屋の前に畳んで置いてあった。家によって違いはあるが、私のホストファミリーは私がやろうとしていた家事までもすべて担い、快適な

生活を送れるように配慮してくれた。私が週末に出かけることを伝えると、袋に私と友だちの分のサンドイッチとスナックを詰めてくれたことが嬉しかった。私が手鏡を貸してほしいとお願いしたときに、ホストファザーのお母さんのものをきれいに磨いて渡してくれたことにはとても感動した。

#### 4. 美しい街並みと美味しい食事

エジンバラは小さな街で、どこへ行くにも基本的に歩いて行くことができる。何より建物がほんとうに美しく、ホストファミリーはバスでの通学を勧めていたが建物を眺めるために毎日歩いて通学していたほどだ。ホストによれば、エジンバラの建物は平均して 200 歳くらいで、エジンバラキャッスルは約 1000 年もそこに建っているらしい。家もお店も建物自体取り壊すのではなく、内装だけ変えて使い続けているのだが、家のなかには前の家主が残していった絵画や家具などがいくつもあった。無料で入ることのできる教会やギャラリーがあちこちにあるので、ぜひ外観も内装もその美しさを感じ取ってほしい。大通りでスコットラン



ドの伝統衣装を着てバグパイプを演奏している人を数回見かけた。夕日が沈むころ、ヴァイオリンの音色と教会の鐘の音が重なったあの感動が今でも忘れられない。

UK には様々な国のレストランが立ち並び、どれもボリュームでとても美味しそうだった。実際に見た目も味も満足できるものに出会えた。街にはいたるところにカフェがあり、魅力的なスイーツがショーケースに並んでいるのにつられて何軒か訪れたが、どのお店も雰囲気も接客も味も素晴らしかった。特に印象に残っているのはキャロットケーキで、スパイスの効いたほろほろしっとりの生地に、ナッツとレーズンがごろごろ入っていて、上にはチーズクリームがたっぷり乗っていてとても美味しかった。



私はこれを読んでいる皆さんに、心の底からこの研修への参加をお勧めしたいです。そう言えるほどに有意義な研修だったと思います。この報告書では三つのセクションに分けて研修を紹介します。まず英語学習について、次に留学中の生活について、最後にこの研修で得た学びについて記述していきます。

まず渡航前の英語学習についてですが、私は IELTS のテスト対策をしていました。この研修に参加する人は IELTS のスコアを 5.0 以上取得する必要があります。また IELTS は TOEIC や英検などとは異なり、リスニングリーディングだけでなく、ライティングスピーキングの能力も必要になります。実際にテストを受けてみると、リスニングリーディングはほかのテストとそこまで難易度に変化はないように感じました。しかしライティングは要約の能力が必要であり、事前に型を学習すべきだったと思いました。またスピーキングは、自分で筋道をたてて説明する力が必要だと感じました。思っていたよりも話すことができず、ショックを受けたのを覚えています。現地では、苦手分野と分かったスピーキングを重点的に克服しようと、自分から積極的に話すことを心掛けました。意識してみると、授業中の質問や、店員さんとの会話一つとっても会話の量を増やすことは可能なのだとあらためて気づきました。特に授業中の発言では、教授はわたしたちの質問や意見を真摯に受け止め嬉しそうに答えてくれるので、心置きなく発言ができます。また同時に文法の間違いなども指摘してくれるため、効率的に英語を話す能力を向上できました。

次に留学中の生活について紹介します。基本的に月曜～金曜は 9 時から授業があり、13 時に終わる日と 16 時に終わる日があります。私は学校終わりに友人とお土産を見たり、近くのカフェに行ったりしていました。そのあとは 18 時ころに家に帰り、ホストファミリーと一緒に夕食を食べます。家にもよると思いますが、私のホストファミリーは中華料理やイタリア料理などいろいろな国の料理をふるまってくれました。夕食を食べ終わると、一緒にアイスを食べながらテレビを見て話したり、自分の部屋で勉強をしたりしていました。一日の流れはこんな感じでしたが、週末は自由だったのでマーケットに行っておジンバラ市内を歩いたり、夜行バスで往復 18 時間かけてロンドンに行ったりと、たくさんの経験をすることができました。その中でも特に印象に残っている経験は、初日に行ったシティツアーと、Ceilidh というダンスパーティーです。まず初日の午後、私たちはメンターのグレイスとともにバスに乗ってエジンバラ市内を周るツアーに参加しました。私たちが乗ったバスは 2 階建てで、後方の席は屋根がなくとても開放的でした。一時間ほどかけてエジンバラ市内をめぐるという内容だったのですが、エジンバラの歴史ある街並みを見ることができ、とても感動したのを覚えています。またガイドの方がずっと英語で説明をしてくださるので、歴史を学びつつ英語学習もできて一石二鳥でした。次にダンスパーティーですが、大学二週目の火曜夜に行われました。Ceilidh というのは、スコットランドの伝統的な踊りで、ダンス初心者の私でも十分楽しめた。堅苦しいダンスではなく授業のレクでやるような内容が多く、体を動かすことが好きな人にとっても向いていると感じました。想像よりもずっとハードなダンスだったので、一曲終わるころには汗だくでした。またこのパーティーでの醍醐味は、

いろいろな人と親しくなれることではないかと考えます。実際このパーティーに参加したことによって、今まであまり話すことのできなかつた関西学院大学の人と話すことができたり、初対面の人と英語でコミュニケーションを取りながら踊ることができました。運動によってある程度ラフに人とかかわることができたと思います。

最後に、私はこの研修で、自分からコミュニケーションを取ることの大切さを学びました。わたしは今までどちらかというと、新しく出会った人との会話を負担に感じる方でした。そのためこの研修に参加する前はホームステイや大学での交流が不安でした。しかしこの研修でより多くの物を得るため、いろんな人に自分から関わりを持つと努力しました。その結果、ホストファミリーのこれまでの仕事や趣味に関する個人的な話から、社会問題に関する話までとても興味深い話をすることができました。それだけでなく、大学ではメンターの学生に今流行しているものを教えてもらったり、若い人が良く使うスラングを教えてもらうなど、実際に会話することでしか得られない情報をたくさん教えてもらうことができました。学校の授業だけではわからないことを、積極的に知りに行けたと感じます。今回の研修で培ったものは英語力だけでなく、こうした人間としてのコミュニケーション能力であると強く感じています。これからも学び得たものを忘れず、今後の生活に生かしていきます。こうした経験をさせてくださった金沢大学の先生方、エジンバラ大学の先生方、メンターの方、ホストファミリー、その他サポートしてくださった方々に心からの感謝を申し上げます。



エジンバラの街並み



Ceilidhの様子

### 事前研修について

エジンバラ大学へ留学する前には、事前研修があります。事前研修では、会話練習やスピーチ練習、英語で行うプレゼンテーションに取り組みました。また、東川先生によって行われる「基礎演習」という授業も受講しました。この授業では、英語で日本法について学びます。授業には留学生も参加しておりグループでのディスカッションでは英語で話すことが必要とされるため、自分の英語で何とかして相手に伝える練習にもなりとてもよかったです。

### エジンバラ大学での授業について

エジンバラ大学の授業では、イギリス・スコットランドの法制度や政治だけでなくプレゼンテーションに必要なスキルについても学び、最終日にはグループでプレゼンテーションを行いました。エジンバラ大学での授業は月曜日から金曜日までの9:00-13:00までで、先生2人、mentorさん1人（エジンバラ大学の学生）と一緒に様々なことについて学びました。法制度を学ぶことに加え英語で授業が行われることもあり、エジンバラ大学で授業を受けることに対して「ついていけるかな」と不安を感じていましたが、授業は専門用語を習うところから始まり、わからないことはすぐに調べたり聞いたりできる環境であったため、安心して授業を受けることができました。また、授業では法学について学ぶ以外にも、英会話のコツや日常生活で使える実用的な英語も学ぶことができます。さらに、スコットランドの議会や裁判所に訪問して実際に裁判を傍聴する機会もあります。これらに加えて、mentorの方が放課後にvisit tourを開いてくれて、大学周辺の施設や美術館など様々な場所を訪れることができます。

### ホームステイについて

私は子どもが全員自立している老夫婦のお家に滞在させていただきました。週末には娘さん家族が遊びに来てお孫さんたちとも話すことができました。とても暖かい方たちで、週間という短い期間でしたが本当の家族のように接していただけて嬉しかったです。

私は、食物アレルギーがあるため食事に配慮が必要であることをしっかり伝えられるか不安でしたが、アレルギーのことを事前に伝えていたこともあり問題ありませんでした。夕食時にはその日に起きた出来事や日本のこと、スコットランドのことなどについて話すことができ、多くのコミュニケーションをとれました。ホストマザーの夕食は彩り豊かで、とてもおいしかったです。



図1ホストマザーの手作り料理

### 余暇について

土日は授業がなかったので、観光やカフェを巡ったり、パブや Ceilidh に行ったりしてスコットランドの街を満喫しました。また、自分たちで予約を取ってロンドンにも行きました。私は特に Ceilidh に行ったことが思い出に残っています。Ceilidh とは、スコットランドの伝統的な踊りです。踊ることが苦手な私でも楽しめたので、ぜひスコットランドに行った際には行ってみたいと思います。



図2パブ



図3 エジンバラの街並み

### 研修を終えて

この研修を終えて、私はエジンバラという街が大好きになりました。担当してくださった先生方や mentor さんだけでなく、ホストファミリーや街ですれ違った人々などを含め、本当に多くの人々のやさしさに触れることができた三週間だったと思います。授業は、初めに不安に感じていたのがウソかのように楽しかったですが、同時に自身の法律の知識や英

語力が乏しさを実感しました。しかし、この自覚がこれからの大学生活で成長していこうというやる気につながったと思います。この研修は法律で英語を学べるという他にはなかなかない貴重な機会だと思うので、ぜひ様々な人に参加していただきたいです。